

【関むぎパッションフルーツのこれまでの過程・あしあと】

◆始まりは地域通貨での活性化の検討からだった

- ①平成 18 年度：武儀町商工会の平成カード会（会長：古池裕美）が発行してきた地域通貨「エコピー」の利用を活性化する学習会で講師から、発行の経費を得る目的で商店の壁面緑化と緑化植物として、パッションフルーツの導入を提案された。
- 地域通貨は買い回りを地域に固定し地域商業の持続を図る狙いで、この狙いに相応し、外部経済効果が大きい公益的事業として壁面緑化が浮上した。

◆壁面緑化の普及、商業者の気づき、栽培の検討

- ②平成 19 年度：平成カード会が壁面緑化の普及に乗り出し、地元の関市武儀地域を中心に計 54 事業所がパッションフルーツでの壁面緑化を導入。

地域ぐるみで真夏の省エネに取り組むきっかけを作った。小・中学校、関市役所に緑のカーテンをプレゼント。

壁面緑化に参加した一部商店主から、「花が咲くし、果実が楽しめる。農業として本格栽培できないか…」の声が出て、栽培に向けた動きが具体化する。

パッションフルーツは温度管理を除けば、農作業の肉体的負担が小さく高齢者にも向いている。



武儀地域の事業所の壁面緑化例
(関市東商工会・平成 19 年 7 月)

◆地球環境に優しい夏一作系・露地栽培の技術を確立

- ③平成 20 年度：古池裕美氏・三輪幸生氏が、遊休農地を借りてパッションフルーツの試験栽培を実施。

温度がある夏だけに限った年一作型露地栽培の栽培技術をほぼ確立。

地元の道の駅「平成」で果実を試験販売。

三輪幸生氏の施肥設計により、積雪寒冷地帯における露地栽培でありながら、世界有数の糖度、品質（沖縄県石垣市の川平ファーム・橋爪雅彦代表）を実現。

葉を白川茶の製法で乾燥、遠赤焙煎した「パッションフルーツ茶」を試作、試験販売。

ハウスなど施設や化石燃料、農薬を使わずに亜熱帯果実の露地栽培に成功。地球環境に優しい栽培方法が評価され各種媒体に 10 数回露出。

(有)古池商事は、パッションフルーツ栽培・お茶新商品開発で、経営革新岐阜県知事認定。



初収穫の果実
(平成 20 年 8 月 26 日)



◆ 専門農家の参入、各種連携の具体化、県ファンドの支援、広がる外部経済効果

- ④平成 21 年度：専門農家三輪幸生氏・長尾成美氏・古池裕美氏らが栽培に本格参入。
「関むぎパッションフルーツ組合」(任意)を結成。
JAめぐみのの直売施設「とれった広場」と提携して直販。
取り扱いの道の駅も関市・美濃市の 4 箇所に拡大した。



専門農家の参入で圃場も本格的な仕立てになった。

JA「とれった広場」で人気だった



岐阜県商工会連合会・関市東商工会の支援により、アルプス薬品工業(株)とパッションフルーツを原料とした高機能食品の開発について研究会を開催。

アルプス薬品工業(株)は組合のパッションフルーツの糖度、葉酸等の有為性に着目、開発意思を固める。葉酸は認知症予防に効果が期待できる。

11 月岐阜県農商工連携ファンド補助金が決定。

果実販売の間屋機能を有する(有)古池商事(古池裕美)と未来ファームサービス(三輪幸生)を共同申請者とし、アルプス薬品工業(株)に試作を依頼する経費を中心に補助金を得た。

高機能食品を本格的に研究開発する。

和菓子工房石はらさんがパッションフルーツの果汁を使ったお菓子やゼリーを開発販売。

12月遊休農地2.0haを借り上げ、使用貸借契約を締結。内1.2haは団地化に成功。露地栽培としては、本場沖縄や小笠原をしのぎ、国内最大規模となる。早速、農地への開墾作業を始める。



武儀東小学校が校舎の壁面緑化を記録した映画「パッションフルーツで緑のカーテン作り」が「アジア国際子ども映画祭 IN いぶすき」で入賞。



入賞

武儀東小学校
地域の人と協力し、パッションフルーツで緑のカーテンを作り、その成長の様子を記録。
緑の大切さを訴えた作品。



武儀東小学校
パッションフルーツ定植風景
(子どもたちが頑張った)

地域通貨エコピーの図柄を一新。
500円相当券にパッションフルーツの花と果実の絵が登場。



地域通貨の図柄になった
パッションフルーツ
(人気投票で選ばれた)

1月 組合の法人化準備(平成22年10月法人化予定)。

2月 愛知県北部市場へ販路開拓・市場調査へ行く。

◆国内最大規模の露地農園誕生

⑤平成22年度：

1月開墾作業が整い、農園らしくなった。

2月マルチ張り開始。



3月26日 県主催：商品展示会
パッションフルーツの高機能食品商談会
(じゅうろくプラザ：岐阜市)



4月13日定植作業開始。



4月22日関むぎパッションフルーツ農園開き

本州初の大規模農園のはじまり。